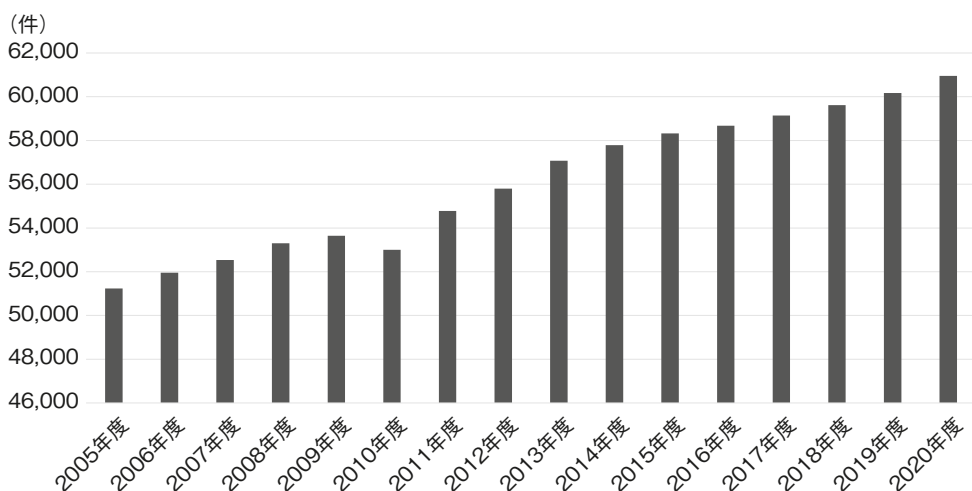


薬局の数



1990年代以降、医薬分業が進んだ結果、薬局の店舗数は年々増え続け、2019年には初めて6万店を超えた。今やコンビニよりも多いといわれる薬局。最近は調剤薬局を併設するドラッグストアも増え、多様化が進んでいる。最も身近な医療機関の一つである薬局を最大限に活用するべく、地域住民のセルフケアを支援する「健康サポート薬局」、医療機関と連携して在宅医療をサポートするかかりつけの「地域連携薬局」、医療機関と連携してがん等の専門的薬学管理に対応する「専門医療機関連携薬局」等、さまざまな機能をもつ薬局も増えてきている。一方で、その機能がまだ十分に活用されているとはいえず、増え過ぎた店舗の淘汰が進むとも指摘される。

厚生労働省「衛生行政報告例」より作図（2010年度は東日本大震災の影響で含まれていない地域がある）